



OSAKA SEMBA ROTARY CLUB JAPAN
W E E K L Y R E P O R T

設立 昭和 63 年 (1988) 5 月 23 日
事務所 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋 1-5-12 心斎橋アーバンライフ907
TEL. (06) 6244 -1008 FAX. (06) 6244 -1010
WEB. http://sembarotary.club E-mail : semba@cocoa.ocn.ne.jp
例会 毎週月曜日・12 時 30 分・ホテル日航大阪 Tel. (06) 6244 -1111
会長 藤井 宏明 幹事 篠藤 敦子 会報広報委員長 中井 崇



四つのテスト／言行はこれに照してから Ⅰ. 真実かどうか Ⅱ. みんなに公平か Ⅲ. 好意と友情を深めるか Ⅳ. みんなの為になるかどうか

第1608回 例会 2026年（令和8年）3月23日
（水と衛生月間）

本日のプログラム	（本日のプログレス 中村 一 副SAA）
○ ロ-タリ-ソング 「おおロータリー」	
○ 会長の時間 ○ 幹事報告 ○ 委員会報告 ○ ニコニコ箱報告 ○ 出席報告	
○ フリートーク 「創立40周年記念事業について」	
○ 次年度理事会 4階「藤の間」 13:40～14:40	
○ 合同情報集会 4階「孔雀の間」 18:00～20:30	

前回（3月16日）例会記録

スプリング
桜色舞うころ
桜坂

1. 来客紹介 小中 正光 親睦委員

ゲスト: 1名 地区外: 0名 地区内: 3名 合計 4名
ゲスト: ソルベイ カリーナ ノードウォール 様

2. 会長の時間 藤井 宏明 会長



皆さま、こんにちは。本日も例会にご出席いただきありがとうございます。
今年、阪神・淡路大震災 から 30 年、そして先日 3 月 11 日で東日本大震災 から 15 年が経ちました。
改めて振り返ると、この 30 年の間に日本では二度の大規模震災が発生しています。
決して長いとは言えないスパンの中で、これほど大きな災害を経験しているという事実は、私たちに「備えの重要性」を改めて考えさせます。
そして将来、発生する可能性が高いとされているのが南海トラフ地震 です。

大阪・関西で居を構え事業を営む私たちにとって、決して他人事ではありません。災害はいつ起こるか分からない。だからこそ、平時の備えが重要になります。
私どもの会社でも現在、BCP、いわゆる事業継続計画の策定に取り組んでおります。BCP とは、災害や大きな事故が発生した際に、企業としてどのように事業を継続させていくか、また、できるだけ早く復旧させるためにどのような体制や手順を整えておくかをあらかじめ計画としてまとめておくものです。

具体的には、従業員の安全をどう確保するのか、災害発生時の指揮命令系統はどうするのか、重要な業務をどう継続させるのか、そして取引先やお客様への対応をどう行うのか。

こうした点を整理し、現在計画づくりを進めており、5月末頃までには完成させたいと考えています。

また、当社のホテルの一つである hotel it. では、開業当初から災害に強いホテルであることを意識した設計を行いました。

建物には免震装置を採用し、地震の揺れをできる限り軽減する構造としています。さらに、高圧受電設備や空調設備、給湯設備など、ホテルの運営に欠かすことのできない重要な設備については、上階部分に配置しています。これは、万が一の津波被害などを想定し、建物の低層階が影響を受けた場合でも、できる限りホテル機能を維持できるようにするための設計です。災害への備えというと、非常食や防災グッズなど“物の準備”を思い浮かべることが多いと思います。

しかし実際には、いざという時に誰が判断し、組織としてどう動くのか。

そうした仕組みや考え方の準備も、非常に重要だと感じています。

阪神・淡路、そして東日本の震災から私たちは多くの教訓を学びました。

その教訓を風化させることなく、将来の備えにつなげていくことが今を生きる私たちの責任ではないかと思えます。

この節目の時期に、改めて「備えるとは何か」を考える機会にさせていただければと思います。

本日もありがとうございました。



3. ニコニコ報告 松村 和也 親睦委員

澤田 会員・・・本日のソルベ様の卓話宜しくお願ひ致します。

新川、清水、松村、平山、篠藤、小島、岡本茂、小山、北野、倉咲、竹内、中嶋、大島、岩崎、中西、山川、井澤、中村、盆子原、廣、林(英)、岡本(真)、瀬島、五味、三重、井上、前川、高木、大久保、岡野、野田、小中、片岡、

各会員・・・本日は職場見学です 皆さんご苦労様です

4. 出席報告 中村 一 副SAA

会員総数 47名 出席率計算会員数 46名 出席会員数 43名(オンライン2名) 出席率 94%

第1604回(2月16日) 修正出席率 100%

5. 卓話 「線と縁のつながり」 ソルベイ カーリーナ ノードウォール 様 【澤田宗久会員ご紹介】



私の名前はソルベイ・カーリーナ・ノードウォールです。

本日はこのような機会をいただき、皆さまの前でお話できることを大変光栄に思っております。また、私という人間、私の仕事、そしてなぜそれをしているのかをお話する機会を与えてくださった澤田先生に、心より感謝申し上げます。

私は1945年、スウェーデンのカールスコーガで生まれました。父はスウェーデン人、母はノルウェー人です。子ども時代はカナダとノルウェーを行き来しながら育ち、ノルウェー語、スウェーデン語、そして英語の中で生活していました。そのおかげで、日本語の会話を学ぶことも、少しは楽だったのかもしれませんが。漢字は…いまだにとても不十分ですが。

家族とは自然の中で多くの時間を過ごしました。幼い頃から、森や海辺で見つけたもの、目にしたものを描くことが大好きでした。スケッチブックと鉛筆はいつも私のそばにありました。自然のかげらを家に持ち帰っては、描きながら観察し、学ぶのが楽しみでした。私は若い頃から海の中の世界に魅せられ、その気持ちは今も変わっていません。

バンクーバーでスキューバダイビングの資格を取り、海中世界の美しさと複雑さに改めて感動しました。そして海の生き物について調べ始めました。彼らがどのように生き、どのようにつながり合い、支え合っているのかを学ぶようになったのです。

私が初めて日本に来たのは1970年、バンクーバーからでした。当時、私はバンクーバー美術学校で陶芸を学んでいました。

日本の陶芸技法を学びたいと思い、京都市立芸術大学で1年間勉強する機会をいただきました。京都や大阪で英会話も教えながら、友人たちからとてもカジュアルな(時には少し不思議な)関西弁も学びました。

ある夏、スキューバダイビングのために与論島を訪れ、そこで福岡から来ていた写真家の方々と出会いました。京都へ戻る途中で彼らを訪ね、白黒写真と暗室作業の世界を紹介していただきました。それがきっかけで写真に深く魅了され、その情熱は今も続いています。15年以上、フィルム写真に取り組みました。

京都での生活の後、私はハワイ島ヒロに移り、カメラ店で働きました。同時に、ハワイ大学ヒロ校で日本語の勉強を続けました。自分では日本語を話せると思っていましたが、実際には間違いだらけで荒削りな日本語だったことをすぐに思い知りました。そしてそれは、今でも修正中です。1980年に日本研究を専攻して卒業しました。

この頃、私は10年間空手の稽古もしていました。日本での人生は、私にとって道場のようなものだとよく感じています。靴と一緒にエゴも脱いで、礼をして、一生懸命努力し、あまり文句を言わない。私は今でも手帳に「道場訓」をはさんでいます。もちろん、どれもまだまだ未熟ですが、これからも努力を続けたいと思っています。

1983年、ヒロで息子が生まれ、私はシングルマザーになりました。息子が3歳になったとき、日本で育てようと決心しました。英語を教える仕事があれば、二人で生活していけると思ったからです。

私たちは神戸に6年間住みました。息子はポートピア保育園に通い、その後、港島小学校に入りました。子どもは本当にすごいですね。息子はあっという間に日本語がペラペラになりました。

ある友人が寺田町のご家族を紹介してくれました。そのご縁は今も続いていて、今でも大切な友人としてお付き合いしています。そしてそのご家族を通して澤田先生をご紹介いただきました。先生にはもう40年近く、ずっとお世話になっています。

私にとって本当に信頼できる歯科医の先生です。

息子が9歳のとき、私の健康上の理由で再びバンクーバーへ戻らなければならなくなりました。私たちにはたくさんの荷物がありませんでした。当時、三宮にノルウェー人船員教会があり、私たちはよくノルウェーワッフルとコーヒー、そしてノルウェー語の会話を楽しみに通っていました。

私はその牧師さんに「貨物船に乗せてもらうことはできませんか」とお願いしました。少し変わったお願いでしたが、牧師さんは船会社に聞いてみてくださいと、数か月後、「乗れますよ」と知らせてくれました。こうして私たちは貨物船で3週間かけてバンクーバーへ戻りました。本当にわくわくする素晴らしい冒険でした。

3年後、私は再び英語を教えるため、日本に戻るようになりました。姉妹船でまた太平洋を渡りました。その直前に阪神・淡路大震災が起こり、ポートアイランドには戻れませんでしたので、西明石の海のすぐそばに住むことにしました。そこで6年間暮らしました。6月から12月までは、ほとんど毎日のように泳いだりシュノーケリングをしたりしていました。再び海の近くで暮らせたことは本当に幸せでしたし、バンクーバーの海よりもずっと暖かかったです。

その後、ビクトリアに住む父がパーキンソン病になったという知らせを受け、またカナダへ戻るようになりました。私は別の貨物船会社を見つけ、三度目の太平洋横断を船で経験しました。

10年後、私は再びヒロに6年間住みましたが、2018年に日本へ戻ることを決めました。それ以来、日本で暮らしています。現在は伏見稲荷の近くに住み、昨年ようやく日本に戻ることができた息子と一緒に暮らしています。

息子は現在、京都でツアーガイドをしています。ハワイにいた頃は、日本の会社が運営するツアーで、マウナケアの星空観察やコナでのドルフィンスイムのガイドをしていました。

今、こうして息子がそばにいてくれることは、私にとって大きな安心と喜びです。

2010年、メキシコ湾でディープウォーター・ホライズン石油掘削施設の爆発事故が起こり、史上最大規模の海洋油流出事故となりました。その出来事をきっかけに、私は自分のアートの焦点を海洋保全へと大きく転換しました。

現在も、NOAA(アメリカ海洋大気庁)のオンライン・ウェビナーに定期的に参加し、最新の海洋の出来事や研究について学び続けています。新しい技術によって、これまで見ることでできなかった深海の様子が撮影されるようになりました。

そうしたドキュメンタリーは本当に魅力的で、とても勉強になりますし、新しい作品のアイデアもたくさん与えてくれます。少し明るい話題で締めくりたいと思いますが、私は音楽も大好きです。歌うことが好きで、高校生の頃からギターを弾いています。ここ数年の個展では、いつもギターを持参して、生演奏もお届けしています。澤田先生も心齋橋のギャラリーで聴いてくださいました。音楽は私にとっていちばん幸せな趣味です。楽しむためだけに弾き、歌っていますが、古い歌を何百曲も知っています。もしまた皆さまとお会いする機会がありましたら、今回はアートだけでなく、ギターも持って来られたらと思います。私は、「描けば描くほど学び、学ぶほど愛し、愛するほど守りたくなる」と信じています。これが私のマントラです。これからも、私のアートと、まだまだ不完全な日本語を通して、できるだけ多くの方々、特に子どもたちに、自然を“新しい目”で見つめ、触れ、感じ、敬い、尊重し、そして守る方法を見つけてもらえるよう働きかけていきたいと思っています。たとえ小さな変化でも生み出すことができたなら、それが私にとって大きな喜びです。本日はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました。ハワイの言葉で、最後にこう言います。「ア・ファイ・ホウ！」「またお会いしましょう」という意味です。

PROFILE



Solveig Karina Nordwall

ソルベイ カリーナ ノードウォール

- 1945 スウェーデン生まれ、ノルウェーとカナダ育ち
- ハワイ大学卒業 日本学部
- ヒロハワイ島に18年、ハワイ大学卒業、日本学部
- 日本に含めて24年
- 英会話家庭 25年
- 独学生涯の自然イラストレーター

固定

- ギャラリーチャンネル長堀、大阪心齋橋
 - 2019 8月
 - 2020 3月
 - 2020 9月
 - 2022 9月
 - 2023 6月
- 神戸ポートピアホテル
 - 2019 12月
- 大阪岸和田市
 - 2024 10月

solveigsstudio@gmail.com

職場見学【丹波黒の小田垣商店とぼたん鍋】

2026年3月16日(月)

職業奉仕委員長 岡本 茂



今年度の職業奉仕恒例の職場見学は、3月16日に、丹波篠山の黒豆の小田垣商店を訪ねました。また、職場見学後の懇親会には、同じ丹波篠山市内にある「宝魚園」におじゃまし、藤井会長イチ押し「ぼたん鍋」を堪能しました。なお、小田垣社長も宝魚園の田中社長も、篠山ロータリークラブの会員さんです。



「デカンショのまち」篠山の河原町の町並みは、かつての城下町の面影を色濃く残しています。中でも、小田垣商店は、江戸時代から続く老舗の黒豆卸店で、本店は、国の登録有形文化財に指定されています。

丹波黒大豆は、11月から12月にかけて収穫・集荷・選別・出荷して、主にはお正月のおせち料理の高級黒豆として、全国の百貨店、食品メーカーに卸しています。熟練の職人による伝統手選り(てより)選別は、一年中行われていて、豆のキズや形を人の目で一粒ずつ見分けていく作業で、まさに「丹波黒」の値打ちを左右する工程です。

近年、本店内に建築家の手による庭園とその庭園内にカフェ(豆堂)がオープンし、ここでは黒豆を使ったスイーツや料理を提供しています。また、昨年春にはこの庭園内に一棟貸しの宿(豆家)が開業しました。古い時代の文化財建築を現代に蘇らせたこの空間は、枯山水と苔庭からなる石庭が広がり、「秘すれば花」—静寂と神秘に包まれています。

イノシシの食文化は、質と量の両方が備わった丹波篠山の地で育まれてきました。おいしいだけでなく、ヘルシーなものもシシ肉の魅力です。高たんぱくで低カロリー、低脂肪。疲労回復に効果のあるビタミン B1 は、豚肉を上回ります。コラーゲンもたっぷり含まれ、美容効果もあり栄養価も高く、滋味あふれる食材です。宝魚園では甘さを控えたあっさりしたみそのだしが特徴。香り高いみそ味だしの鍋の前にシシ肉、白ネギ、白菜、ヤマノイモとお箸もお酒も進み、♫は鍋で半熟にした卵を使った特製の「たまごかけご飯」。ごちそうさまでした。



小グループ活動 Bグループ 下半期 第1回会合

日時：3月11日（水）18：00～

会場：中之島中央法律事務所 ⇒ 四川料理 御腹 中之島ダイビル店

参加者：中井、俣野、片岡、塩尻、岡本（真）、岩崎、三重、林（英）【順不同、敬称略】

前回、私が作成した議事録の中身が薄かったことを懸念して、中井さんが会食の前にディスカッションの時間を設けてくださいました。テーマは、「40周年に向けて、どんな奉仕活動が考えられるか」です。まず、現在のクラブ戦略についての確認と過去の周年事業の振り返りがあり、新しいメンバーにとっては、学びの多い時間でした。従来、ロータリークラブの活動は年度単位で完結することが前提となっており、わかりやすい一方で、継続的な取り組みが難しいという課題があります。しかし最近、新旧の執行部がうまく連携していることもあり、長期的な計画を考えやすくなりました。これにより、大きな事業に取り組む可能性も広がり、グローバル補助金（GG）の活用についても強化できそうだという話がありました。また、青少年奉仕や、海外でも比較的訪問しやすい地域での奉



仕活動などについての意見も多く出され、今後さまざまな案をテーブルに上げ、皆で議論していこうという雰囲気になりました。一方で、新しい活動を始めるということは、既存の活動を見直すこともセットで考える必要があるのではないかと、という意見もありました。ディスカッションのあとは、レストランでの会食。ロータリーの歴史と武勇伝について語りながら、おいしい中華料理を頂きました。名物の自家製ごま団子は絶品。生まれて初めて白いごま団子を食べ、また少し大人になった気がします。



（文責：林 英彦）

★4月例会予定★

日		司会	プログラム	例会場	その他
6	・環境月間	竹内	次年度会長方針： 岡野会長エレクト	7階 「フオンタナ」	お誕生日お祝い 理事会4階「藤の間」13:40～14:40
13	4/1⑫ゴルフ同好会 4/4 26-27 地区研修セミナー 4/9 米山オリエンテーション	竹内	社会奉仕フォーラム	7階 「フオンタナ」	フォーラム ～14:00延長
20	4/20⑪グルメ同好会	竹内	職奉卓話：伊藤会員 原山会員	7階 「フオンタナ」	新旧クラブ協議会 4階「蘭の間」13:40～14:40
27		竹内	職奉卓話：小島会員 洪会員	4階 「孔雀の間」	